

変わりゆく時代の中で、 変わらない使命がある。

環境・社会・技術が複雑に交わる今、
私たちは「共生の価値」を示し続け、100年先の信頼を築いていきます。



Corporate Profile

 日本ミクニヤ株式会社 会社案内



ISO9001:2015認証取得
認証範囲については
ホームページをご確認ください



ホームページ



お問い合わせ
フォーム



Message

「100年続く企業」を目指して。

当社は「海とその調和」をテーマに1985年に創立いたしました。創立当初は自然と人間活動との対立（二元論）が語られていた20世紀でしたが、21世紀に入り、「豊かさ」と「安らぎ」が調和する持続可能な社会への志向が高まりました。昭和から平成を経て、Society3.0（工業社会）からSociety4.0（情報社会）への移行が進む中、私たちの暮らしは劇的な変化を経験してきました。

そして、現在、デジタルとリアルの融合社会となるSociety5.0（超スマート社会）は、いよいよ現実のものとなりつつあります。AI・IoT・ビッグデータといった先端技術は社会インフラや私たちの日常に深く浸透しつつあります。当社においても、これらの技術を柔軟に活用しながら、社会と環境の共生を追求するインターフェースの構築に取り組んでおります。一方で、人にしかできないこと（人間力）を大切にし、お客様の立場に立った丁寧で本質的なサービスの提供が、これからの企業にとって不可欠であると私たちは考えます。技術力と人間力、それぞれの強みを掛け合わせたシナジーこそが、社会に貢献し続ける企業の新しい姿であり、当社のありたい姿でもあります。

当社は防災と環境のリスクコンサルティング事業により、自然と人間社会の橋渡し役を担う「インターフェースコンセプト」のもと、自然環境および社会環境におけるあらゆるリスクに対して技術力と人間力でコンサルティングを行ってまいります。これからも、経済発展と防災・環境に関する課題解決へ貢献し続けるべく、「100年続く企業」を目指し、真摯に、そして柔軟に社会のニーズに応えられるよう、お客様と共に未来を築いてまいります。

今後とも、温かいご支援ご鞭撻を賜りますよう、
よろしくお願い申し上げます。

日本ミクニヤ株式会社

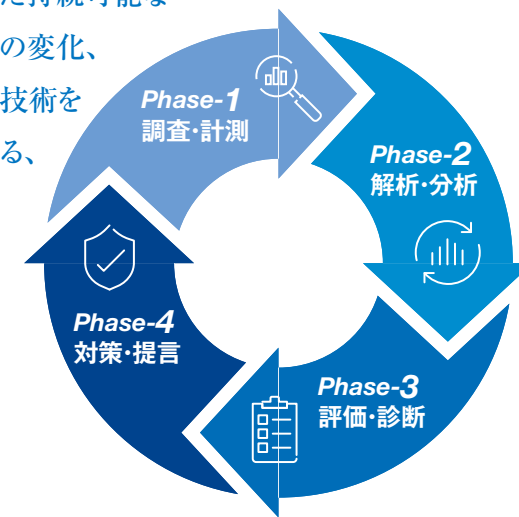
代表取締役 徳岡 誠人



Concept

社会に対する大きな使命を持って。

近年Society 5.0 に時代が本格化し、新しい価値観の広がる成熟社会へと移行が進んでいます。また、経済効率を追求しながら、自然や環境を大切にし、安心安全に配慮した持続可能な社会を構成する時代へと大きく変化しています。そのような大きな社会環境の変化、価値観の変化のなか、私たちは、社会的に重要なDX等の調査・解析・評価技術を取り入れながら、コンサルティングスキルにより対策・提言までマネジメントできる、防災と環境のリスクコンサルタント企業として様々な課題に対応していく必要があります。そして、気候変動・大規模災害・エネルギー・食糧問題など多様な課題が顕在化し、私たちを取り巻く社会環境が大きく変化する中で、自然や人間社会の在るべき姿を提案していくことが私たちの使命であると考えます。



仕事への考え方

私たちは、技術者としての専門性を活かし、社会基盤や生活環境に安心・安全を提供する「社会の公器」であるべきだと考えております。そのため、仕事に対して「自社の利」、「顧客の利」に加えて「社会の利」を意識することが重要であると考えております。これまで組織として培ってきた技術力と知識を活かし、さらに成長し続けながら、営業提案から現地調査さらに報告までのStep1からStep5の一貫した対応を組織全体で取り組んでおります。それにより、顧客との信頼関係が築けると考えております。

Policy



Details

事業内容

Disaster Risk Reduction 防災

災害に強い社会基盤と地域を築くため、社会インフラの維持管理や防災・減災対策、災害時の事業継続計画の策定などを通じて、安全で持続可能な地域づくりを支援します。

防災・減災

リスクに強いまち・組織づくりを支える

社会基盤保全

安全な暮らしを守る、確かなインフラメンテナンス

空間情報

空間情報を“みえる化”暮らしに“いきる化”

Geo-Intelligence デジタル技術

空間データで地域の未来を支えるため、陸・海・空の多様なフィールドを対象とした高精度な計測と、BIM/CIMやDXを活用した情報の一元管理により、社会基盤整備の効率化を支援します。

漁港・漁場

水産業を支える漁港と漁場の保全

水工計測

変わる気候、計測力で暮らしを守る

自然環境保全

社会と自然環境の共存を目指して

生活環境衛生

廃棄物の再資源化、水の再生と浄化

Environmental Solutions

環境

自然と共に生きる持続可能な未来を目指し、生態系や水辺環境の保全、廃棄物の減容・再資源化などに取り組み、環境保全と循環型社会の実現を支援します。

社会基盤保全

安全な暮らしを守る、 確かなインフラメンテナンス

地域の安全と安心を守るため、現場に最も近い視点から社会基盤の劣化の原因を推定し、最適な詳細調査と補修方法を提案します。空から水中まで幅広いフィールドの気づきを、インフラメンテナンスの新たな価値につなげます。



橋梁点検(高所作業車)



トンネル点検(トンネル点検車)



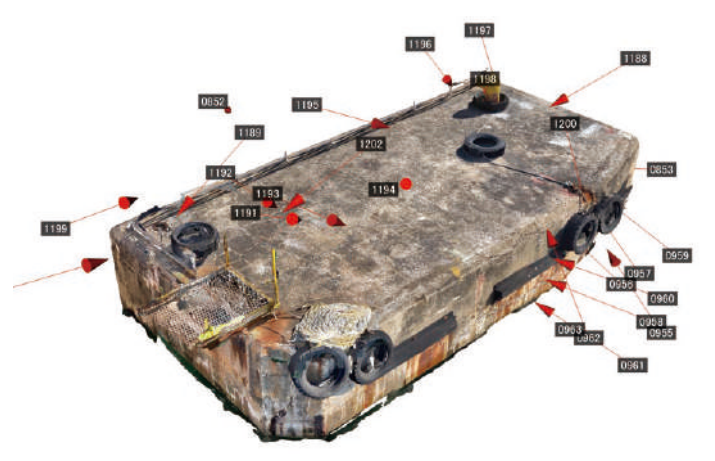
港湾構造物調査(UAV)



港湾構造物調査(潜水調査)



維持管理方針の検討



3Dモデルと現場写真の連携

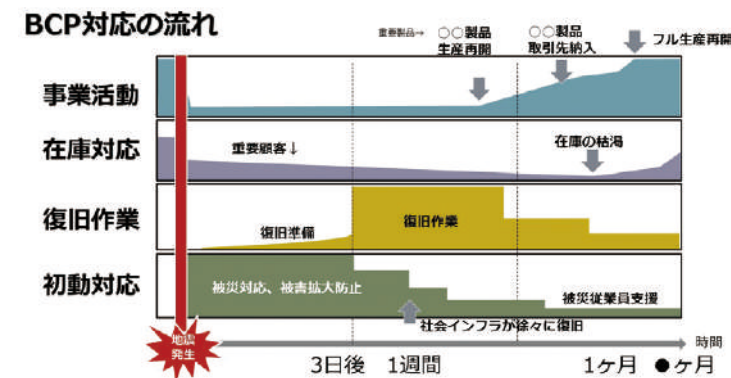
防災・減災

リスクに強いまち・組織づくりを支える

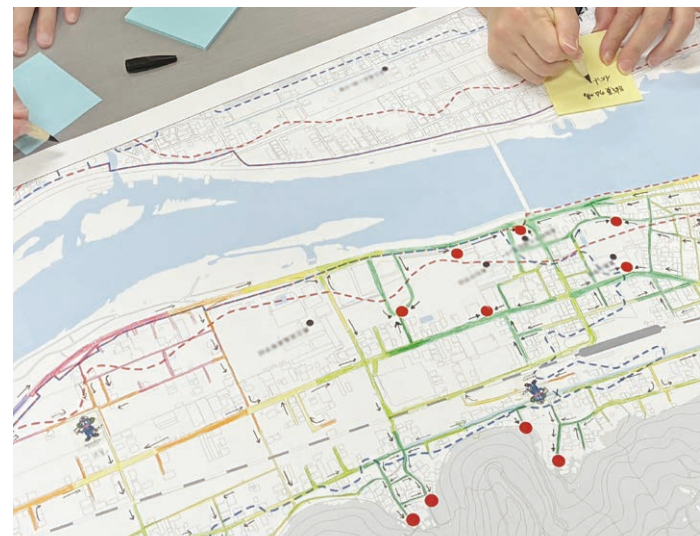
様々なリスクから人と地域を守るため、事業継続計画や地域防災計画の策定、実効性ある訓練の実施支援などを通じて、防災力・復旧力の高い組織と社会づくりを支援します。



防災関連計画策定検討



防災・BCP対策の検討



防災・BCPに関する教育



防災・BCPに関する訓練



危機対応方針の検討およびマニュアル作成



【社会インフラの対象種別】 橋梁、トンネル、河川管理施設、港湾施設、農業水利施設等

【点検・調査・診断・計画・設計】 定期点検(陸上・海上・潜水)、詳細調査、診断、維持管理計画・長寿命化計画、補修設計

【分析】 コンクリート中に含まれる塩分含有量測定(ポータブル蛍光エックス線分析)

【自然災害リスクへの取組(ソフト対策)】 災害リスク調査・評価/各種防災計画、マニュアルの作成/防災まちづくり検討/ハザードマップ作成支援/

災害対応業務における効率化、DX検討/防災人材育成研修/図上演習等の訓練支援

【事業継続リスクへの取り組み】 BCP策定支援/インシデント対応計画策定支援/オールハザードBCP構築/BCP/BCM改善/再構築支援/BCP訓練・演習

国土保全

土砂災害から暮らしを守る

頻発・激甚化する土砂災害に対して、ハードからソフトに至るまで総合的な対策を提案し、土砂災害から国民の生命・財産を守ると共に、国土の保全、水源の涵養、生活環境の保全・形成等を図ります。



砂防施設点検



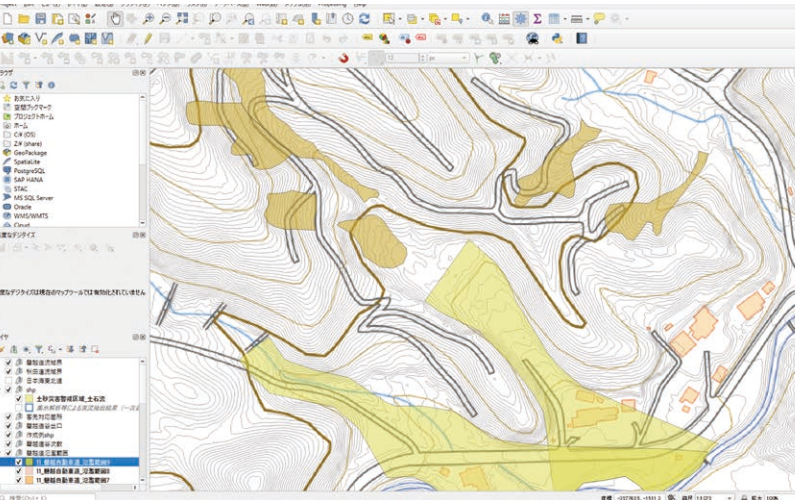
崩壊地調査



治山施設点検



溪流調査



GIS解析



堰堤配置計画・施設設計

【調査】【計画】【設計】
砂防／急傾斜地／地すべり／火山砂防／土砂・洪水氾濫／土石流／治山／森林整備／概略設計／予備設計／詳細設計

漁港・漁場

水産業を支える漁港と漁場の保全

水産業の持続的な発展のため、漁港施設の点検・診断から長寿命化計画の策定・更新、漁港の有効利用策検討まで実施しています。
また、漁場環境に改善のための調査・分析・対策・実証にも取り組んでいます。



漁港機能診断(被災調査)



漁港施設機能診断(詳細調査)



漁港施設点検(水中ドローン)



漁場環境調査(UAV)



漁場環境改善・再生技術開発(アサリ)



二枚貝同定・分析

【漁港】 漁港施設点検／漁港施設機能診断／漁港施設有効利用策検討
【漁場】 漁場環境調査／二枚貝同定・分析・室内試験／漁場環境改善・再生技術開発

水工計測

変わる気候、計測力で暮らしを守る

気候変動による災害リスクに備え、洪水や高潮、海岸侵食などの水災害から暮らしを守るため、多面的なモニタリングを行い、治水・防災の高度化への取組みを支援します。



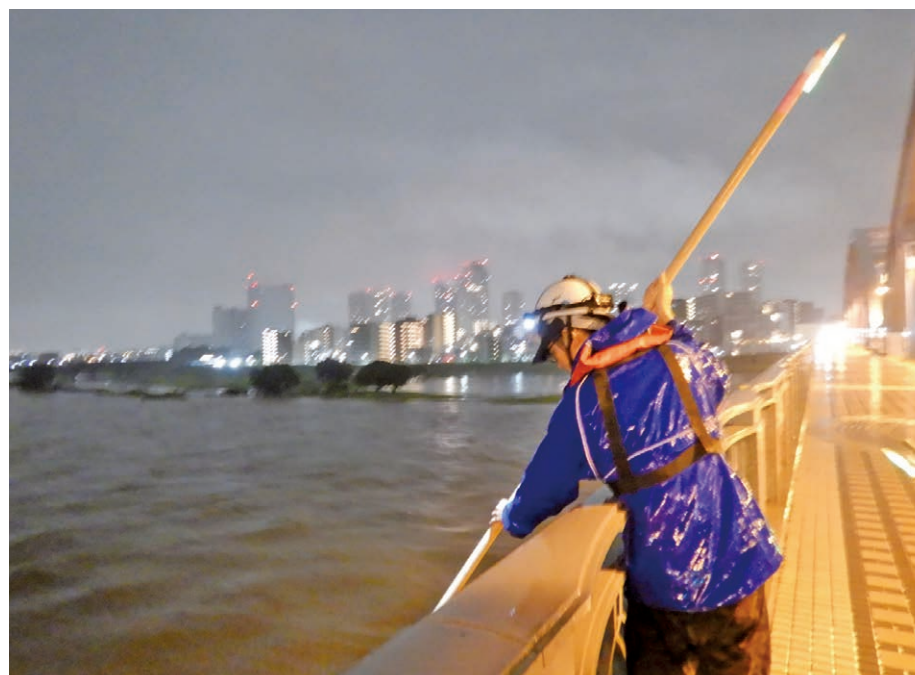
水文観測 (画像解析法)



河川流況観測 (ADCP)



水文観測 (電磁流速計)



水文観測 (浮子法)



水質調査 (機器計測)



河床材料調査 (柱状採泥 VCS)

【調査・観測】【解析】

水質調査／底質調査／河床材料調査／物理環境調査／流量観測／水位観測／波浪・流況観測／流砂・漂砂調査／洪水解析・氾濫シミュレーション／土砂移動・河床変動解析／画像解析

自然環境保全

社会と自然環境の共存を目指して

現地調査を通して、事業実施による環境影響を適切に把握し、人間活動と生態系が調和した持続可能な社会を実現するため、影響低減措置を提案します。



魚類調査 (投網)



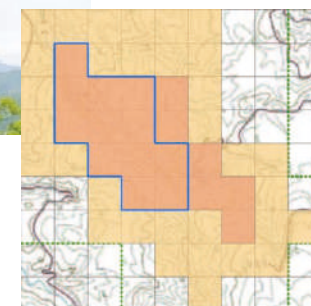
希少野生生物調査 (オオサンショウウオ)



船舶トランセクト



鳥類調査 (猛禽類調査)



希少猛禽類行動圏解析



哺乳類調査 (センサーカメラ)



藻場等調査 (コドラート法)

【調査】【計画】【評価】

動植物調査／河川水辺の国勢調査／猛禽類調査／環境アセスメント／希少野生生物調査／多自然川づくり／自然公園関連調査／自然公園関連調査／遡上調査／外来種調査／ビオトープ関連調査／生物生息環境保全計画／環境保全・計画／森林保全計画

生活環境衛生

廃棄物の再資源化、水の再生と浄化

有機性廃棄物減容化装置や循環型濾過技術を用い、生ごみ・汚泥の減容化と水の再利用を推進しています。また、水処理・廃棄物管理のコンサルティングを通じて、循環型社会の構築に貢献します。



有機性廃棄物減容化装置
ミシマックス(50kg/d処理タイプ)



有機性廃棄物減容化装置
ミシマックス(4t/d処理タイプ)



陸上養殖水質浄化システム



陸上養殖水質浄化システム



水処理・廃棄物処理のコンサルティング



未利用資源の再資源化(菌体肥料)

【廃棄物管理・資源循環】[浄水・排水処理]
有機性廃棄物減容化装置／循環型ろ過技術／未利用資源の活用(バイオマス・農業利用)／凝集剤／吸着ろ材(PFAS)

空間情報

空間情報を“みえる化” 暮らしに“いきる化”

陸・海・空にわたる多様な空間情報を高精度に計測し、BIM/CIM等による一元管理を推進。空間の見える化を通じて、インフラ整備、防災、環境の各分野で、効率的かつ持続可能な計画・管理を支援します。



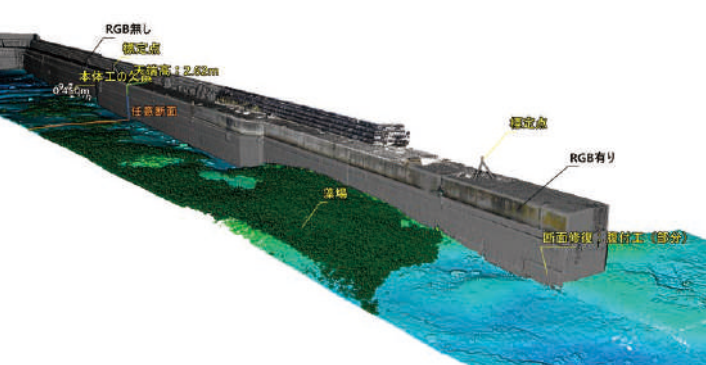
非GNSS受信下のマルチビーム測深



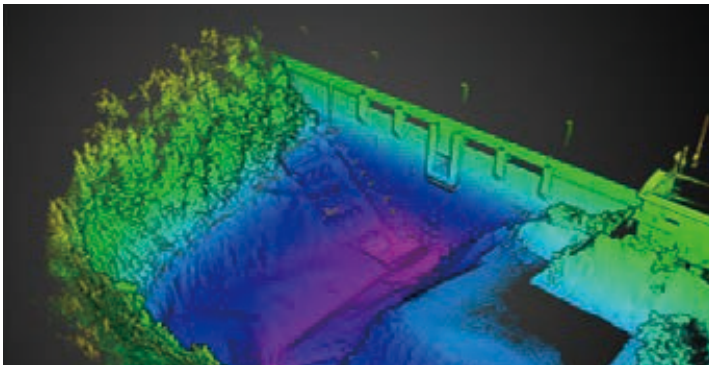
GNSS測量



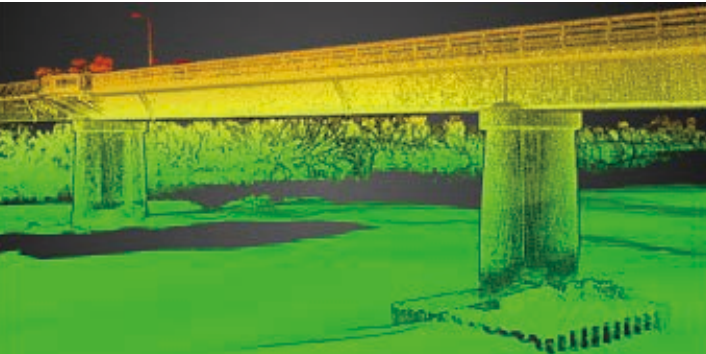
UAV写真測量



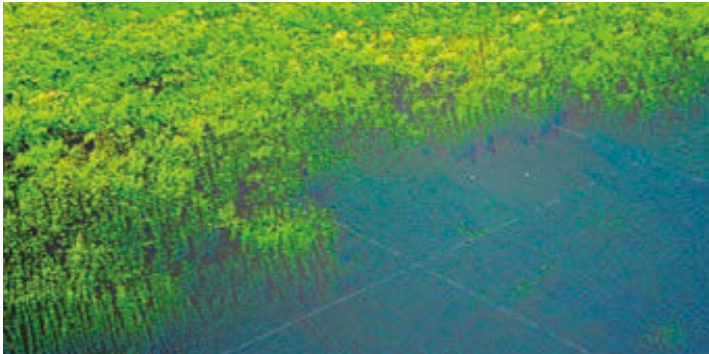
港湾の構造物モデル作成



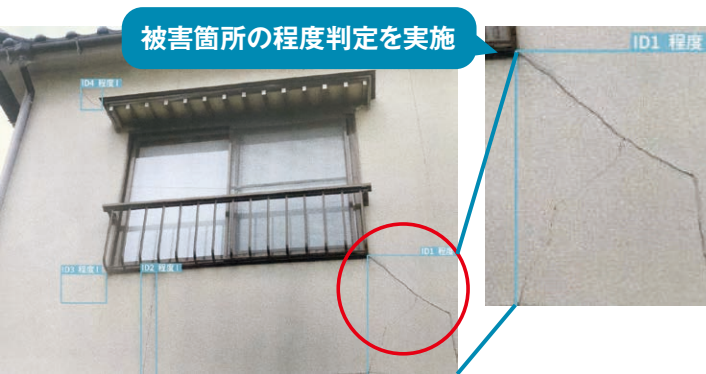
ダム堆砂測量、堤体モデル作成



河川の橋梁確認、河川洗掘調査



藻場調査



AIを活用した住家被害認定支援ツールイメージ



小型魚



大型魚

AIを活用した魚類件数カウント

【計測】【解析】 3次元地形測量(マルチビーム、地上レーザー、グリーンレーザ、SLAM、LiDAR)／基準点測量／現地測量／河川測量／UAV写真測量／
音波探査／深淺測量／3次元データ作成・統合／変位解析・土量計算
【情報】 AI・機械学習／GIS(地理情報システム)／データベース構築／DX推進(測量DX・自動化・効率化)／BIM/CIM連携／データ分析／システム構築

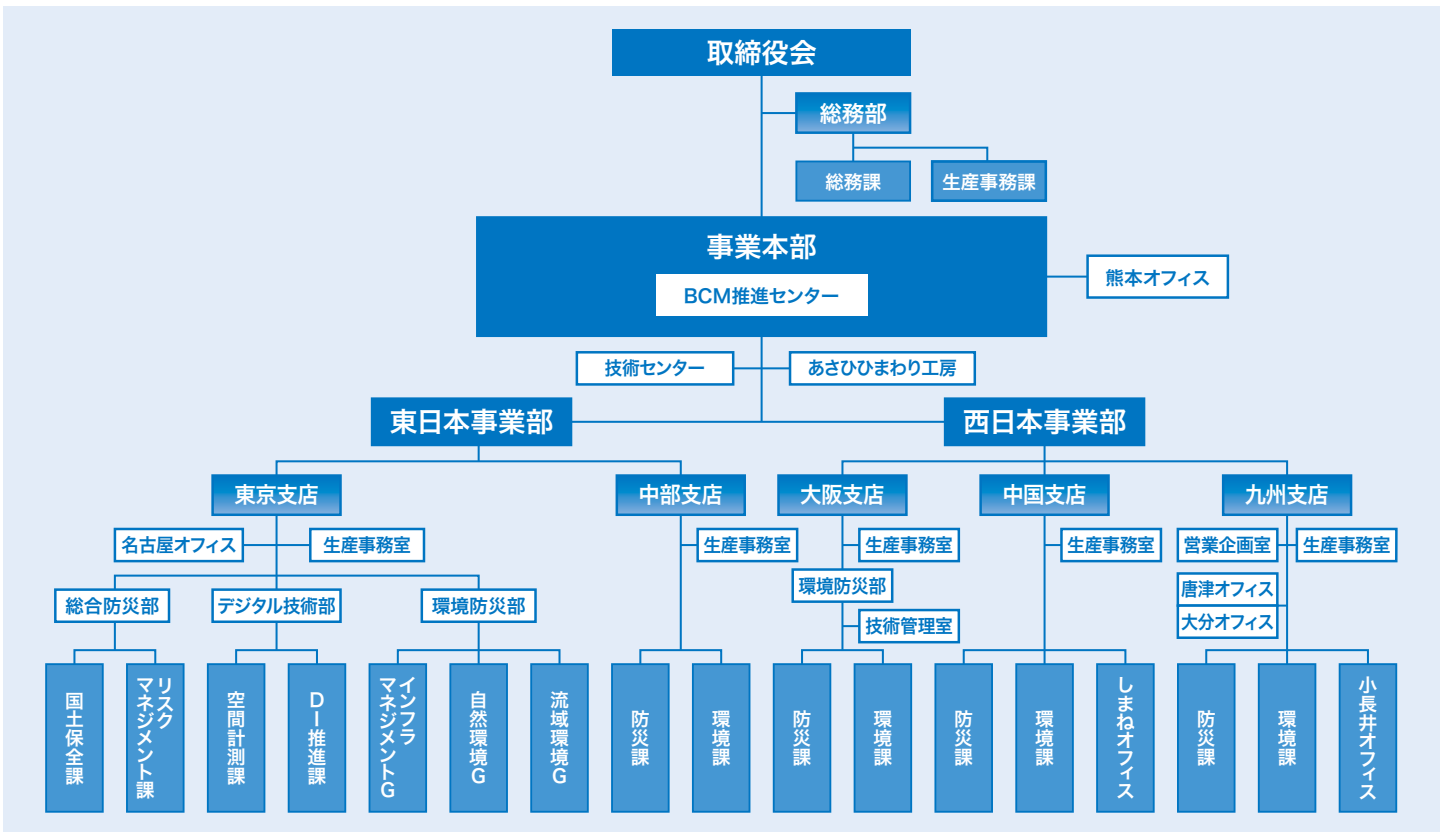
■ 会社概要

設立年月日	1985年(昭和60年)10月16日
資本金	1,000万円
代表者	徳岡誠人
役員	取締役：岸川英樹、松岡江美、西本英明
従業員数	技術系132人 事務系19人 パートタイマー50人 計201人(2025.9)
事業登録	1. 建設コンサルタント業登録 建03第8616号 2. 測量業者登録 第(7)ー19971号
適格請求書発行事業者登録番号	T5020001088425
主要加入団体	公益社団法人日本技術士会、公益社団法人土木学会、公益社団法人砂防学会、公益社団法人日本水環境学会、日本沿岸域学会、公益社団法人日本測量協会、一般社団法人日本風力発電協会、一般社団法人マリノフォーラム21、一般社団法人日本ドローンコンソーシアム、一般社団法人森林技術コンサルタンツ協議会、一般社団法人瀬戸内海エコツーリズム協議会、一般社団法人福祉防災コミュニティ協会、海洋・港湾構造物維持管理士会、NPO法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター、NPO法人みらい有明・不知火 他
関連企業	日本ミクニヤホールディングス株式会社、安全・安心サポート株式会社、株式会社MAcS、株式会社漁師鮮度

■ 沿革



■ 組織図



■ SDGsへの取り組み

当社は、現場に強い建設コンサルタントとして40年以上にわたり、防災と環境の社会的な課題に向き合い、社会性と専門性を高める人材育成を重視してまいりました。今後も、100年続く会社の実現に向けて、持続可能な社会の課題解決を意識した価値創造に取り組んでまいります。

- 1. 環境価値の創造**
環境配慮を徹底し、ネットゼロ社会の構築に貢献
- 2. 社会価値の創造**
地域との共生・持続可能な社会づくりに貢献
- 3. 経済価値の創造**
収益性と効率性の向上で持続的成長を実現
- 4. 顧客への価値創造**
顧客ニーズに応える品質・サービスの追求
- 5. 従業員への価値創造**
働きがいがある職場環境整備と人材育成



半魚人(インタープリター)とは

土木や建築は厳しい自然と人間の共生を図る技術です。バランスを考え調和を図るには、両社の立場を理解する感覚が必要とされます。しかしながら、自然や環境のメカニズムは複雑で解明できないことが多く存在します。それらの課題を解明するためには、工学や社会学等あらゆる学問を融合させ、そして何よりもフィールドを重視することが自らの感性を研ぎ澄ますことができると考えています。私たちは最新の技術を駆使し、フィールドを駆けめぐり、社会環境と自然環境の間に立った『インターフェースコンセプト(魚の気持ち、人の気持ち、どちらの気持ちも解る)』に基づく『インタープリター(半魚人)』として社会の課題解決に取り組んでいます。

